時事新報の編輯ハ關する書信にして往々社員へ宛御送致の向も有之候得共宛名の社員不在の事ありて折角の報道も其用を爲さゞると寡からざれば斯る書信は一切時事新報編輯局宛にて御送付被下度候

時事新報定價

時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外二箇月二十六錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

五號活字ニテ一行目四字詰	一行目限	一行ニ付二日以上十日迄	一行ニ付七日以上十五日迄	一行ニ付十六日以上
一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘
自十一行至廿行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

教育の經濟（一昨日の續）

ドクトル、セメンズ原文の翻譯

第二即ち貴族富家の子弟と教育するには殊に又政府の干渉と不可とす總て高等の教育は一切之を望むものゝ隨意に任せ政府は其設立維持の費金を拂はんとして人民より租稅を徵收す可らざるあり高等教育は割合に僅うある場合を除いては贅澤に屬するものにして實地の用は甚だ少なし今夫れ家屋を作るに一にして實用に差支なき處より三倍の美を盡すい主人の奢りにして贅澤に金を掛くるものならんには政府が高等教育に租稅を用ふるは人の金を以て贅澤と極むるに異あらず教育の經濟を誤るものと云ふ可し

教育と云へば其部門の何たるに論なく何かの目的ありて其目的を達すべき方便に外あらざれば苟も教育と受けんとする者は多少一定したる目的なかる可らず今日學校にて教ゆるものは多くは智識と以て心に充たすと云ふの趣向なれども何の目的もなくして只智識を貯ふるのみにてい教育の旨に背くものにして恰も倉庫に穀物あり道具なり或い製造の品あり猟りは貯藏すれども其物品を實用に供もる能はざるものに似たり智者は決して之を爲さずして先づ其物品の用を考ふることなる可し

今夫れ高等の教育を受けて專門の學術と修めたる人物の需用は如何にと尋ぬるに何國も同じく其需用は甚だ少なき若しも此種の人物の供給が當時需用の高より超過するときい學問其物は如何に貴重なりと雖ども經濟上の價を失ふは必然の數にて商賈の間に物價の高低を生ずるに異なる所なかる可し工學士或は鑛山士たるべき專門の教育を受くるが爲めに學校に入る人い七八年の時を消し數千圓の金を費して卒業しさる後ちは假令へ一の職業を得ざるとも借貸に由りて財政を亂さぬばどの資產を有するものならざる可らずと勸告せんと欲するも亦此理あるが故にて前に云ひし如く教育は自ら財を生ずるものに非ず何かの目的を達すべき方便なれば生活より餘裕ある人民にして實際に用を見ざる智識を得んとして金錢と歲月とを消費せるは大なる間違あり其身特別の職業と改良して着々効を顯はすに足るべき智識ならんには如何あるものにても余は之を以て眞正の教育と稱すべし百姓をして其土地より一層の收穫を增さしむべき教育なれば即ち百姓の教育なり大工をして今までに立勝る家を作らしむべき智識或は理學ならんにい是れ大工適當れ教育あり若しも之に反して學問智識が多數の人民に此れ如き結果を與へざるときには皆贅澤にして紳士骨董の類と擇ぶ所ある可らず然れば則ち政府が高等教育ヨ人民れ金を費やすは人民の贅澤に向て支出するものにして唯その形を教育に變へたるのみ實際は書畫骨董を弄ぶに異ならざるなり

世界何れの國にても多數人民に教育ありて智識に長けたるは其國當時の繁昌富殖の比例ヨ應ずるものヨして露を易へて之を云へば渡世の道易くして日々三度の食事を得るに左まで困難を覺えず家内に在り或は學校に行き時間を智識開發の爲めに消過しても障なきほどに至れバ漸く教育の事を語りて自然智識を得ることなり教育果して人の智德を增進するものなれば之を求ること甚ど善し種々樣々の勸勞に由り人々衣食の用足りて始めて其祈望を遂ぐるを得べきのミ衣奔食走の人民にして豈ヨ教育と談ずるの餘力あらんや故ヨ曰く人民は貧乏あるが故に無學なり、無學あるが故に貧乏あるには非ざるなりと

余が此文を草するに當り偶々彼の大國なる印度人民の現狀を記しさる報告を得たり其中に曰く印度い日に益々貧窮に陷りて殆んど底止する所なし又曰く印度の衰運を回へして其繁盛を謀るには國の工藝ヲ勸奬殖產を勵ますと以て一大急務とす苟も今日の慘狀にして續く限ヨは自由教育と云ひ政治改良と云ひ一切勞して益なかる可しと余ゞ先年印度に在りて親しく目擊したる事情に照らして今この報告を見るに少しも其誤りなを信ずるあり

西洋文明の制度は政治の事あり教育の事なと多年英國の强迫に由て印度ヨ導かれたるものなれとも今日猶は國はます〳〵衰敗に傾き民はます〳〵貧窮に迫まる其根本に溯れば日本現今れ政策は正に印度と方向を同ふするものヨして只其間に異なる處は西洋の文明に倣ふて政體を入れ教育を導くに方りて印度は强大文明の英國ヨ强迫せらるゝ其代りに日本は人民自から助長して其弊と裝るに過ぎず斯る次第ヨして如何なれば印度よりも更に好き結果を望む可きや

西洋の文明を買ふには錢なかる可らず印度い其費用に應ずる爲めに莫大不貲の負債と積み利子のみにても年々增加すること實に計る可らず此故に印度の人民は苛稅厚歛の壓制に苦み膏血を絞るも人民其者に益するヨとは更にあることなし唯幸なるは日本には未だ是ぞと云ふべき外債なけれども今の如く外國制度の後塵を拜し自から稱して進步なり文明なりとする所の現狀を續けんとして外に負債を作ることあらんには即ち印度の轍ヨ倣ひ其二の舞ヨ疲るゝものヨして此期に臨み前非を悔ゆるも甲斐あき次第なれば既に晩しと云いぬ前に印度今日の經驗を鑑みて自から益する所あらんことを望ヨしけれ

余い固より日本の强くして盛るらんヨとを思ふて措く能はざるものなれとも其强盛に赴くや徐々に進んで自然の發達ヨ待つの外なし經濟に賢き政府の保護と注意に由りて人民の工藝殖產の進むに連れ漸を追ふて成長發達すること余の切に企望する所あり衣食足りて始めて教育と知るべし無學は決して貧乏の本にはなり貧乏ヨそ却て無學の本なりと知る可し（畢）

官報

〇閣令第七號

登記料及手數料ハ明治二十一年六月一日ヨリ雇勞印紙ヲ以テ納ムルモノトス

明治廿一年五月九日　内閣總理大臣伯爵黑田清隆

〇三池鑛山局產炭販賣滿期　三池鑛山局產炭販賣方に付き三井物產會社へ委托滿期は本年十二月三十一日限りなり（大藏省）

〇撰擧並被撰擧權を有する者　青森縣に於て昨年十二月卅一日現在縣會議員撰擧被撰擧權を有する者を調査せしヨ地租五圓以上を納むる者一萬七千五百廿三人（士族七百五十七人、平民一萬六千七百六十六人）内撰擧權を有する者一萬六千九百四十三人（士族七百廿五人、平民一萬六千二百十八人）撰擧權を有せさる者五百八十人（士族三十二人、平民五百四十八人）又地租十圓以上を納むる者九千七百六十八人（士族五百九人、平民九千二百五十一人）内被撰擧權を有する者九千八十六人（士族四百十六人、平民八千六百七十人）被撰擧權を有せさる者六百七十四人（士族九十三人、平民五百八十一人）

〇嶋根縣に於る昨年十二月三十一日現在縣會議員撰擧並に被撰擧權を有する者を調査せしヨ地租五圓以上を納むる者二萬六千百二十七人、内撰擧權を有せさる者八百二十九人、内被撰擧權を有する者一萬二千五百一人被撰擧權を有せさる者八百二十六人あり〇大分縣に於て昨年十二月三十一日現在縣會議員撰擧被撰擧權を有する者を調査せしヨ地租五圓以上を納むる者三萬七千八百五人、内撰擧權を有する者三萬五千五百三十八人、撰擧權を有せさる者二千二百七十五人、又地租十圓以上を納むる者一萬五千五十二人、内被撰擧權を有せさる者一萬三千九百五十七人被撰擧權を有せさる者千九十五人あり

〇霧嶋山噴火續報　宮崎縣霧嶋山噴火の景況い爾後別に異狀なく噴烟は稍々間斷ありて鳴動も初發に比せゞ但し正午前後は暫時間斷あり而して拂曉或は日暮に鳴動し同時ヨ黑烟と噴起し稀に火焰を認るとあり（宮崎縣）

雜報

〇米國桑港通信　四月十七日發信

將來の米婦人　如何なる譯合のあるよりか凡て歐洲諸國の人々は米國の婦人をば一概に輕視して常に英佛等の教育と受けさる者とのみ思ひ來りしは實際の有樣なる由然るに近來は米國の進步して慢くべき富强國となりたるヨ共に米婦人と輕視するれ風も歐洲人の間に漸らぎ漸次他の開化國の婦人と同格に見做す傾きありと云ふ今その次第の一斑を聞くに元來米婦人ヨして世界ヨ知れ亘りたる歐洲中の名ある紳士や或は由ある名譽家に嫁したる者、實は倒合に少なく且つ世の婦人の品格、行作、風采、特習等と判然て此に上下是非の符帳を付ける夫交際社會に米婦人の出入する者多ゝらざる所から自然米婦人實際の直打も歐洲の全般に聞えず故に歐洲中にても特に交際の盛なるロンドン、パリーの二都ならも勢、米婦人と多少輕視するの趣きありたるに相違なし然れども近時に至りては此輕視されたる婦人もその交際海を唯ニウヨークや、ワシントンのみに限らず遠く大西洋を越て右英佛の二都は勿論ベルリン、ヴヰンナ、フロレンスの如き歐洲屈指の諸都會に遊歷する者追々に增加し來りて其相互の交際も亦頗る繁けくなるに及びたれば爲めヨ今日までは一概に米婦人を輕視せしことの誤譯を悟るもの隨分多きに至りたりと開く尤も如何に米婦人が只外國人即ち產に歐洲人と交際を廣くす適當の形を教育際を廣くすの形を教育容易く輕視を以て斯る結果を與へざるを以て斯る結果を與へざる倘ほ右の外事柄は英佛上の著名なる判せられて夫の佛國現英國に久しくワッデングるよし特たるいニウより引拔き全豹となす婦人の位地ら考めたるくの如く一方にては有るまじきの爲めに醫學なり內の大學を位地の今後數年の開化は婦人ンドン、パあるに至れ

〇三重紡績　工場は總及職工寄宿宏壯の建築に出張して

ドハム、ヒ

より買入れたる新式の創設するの取らんが爲外の什合あ中なるはミ

ム製紡機（紡分は甲機に四百錘なり

スフサール同氏は多年門の技手なず又他に何の工合甚だ二十の細絲其直段は幾他の地方よるとおく倘百錘殘らず氣短十燭光

へ其器械購男女共ヨ百過る感なき

々多數の職

海軍大尉土屋英　病氣ノ處養生不叶今八日午前八時三十分死去來ル十二日午後一時下高輪町五十七番地出棺青山墓地ニ埋葬ス　親族　副　照廣

廣告

肥前古賀銀行振出第二六號送金手形一金拾五圓　依頼人　山口又一郎

東京學士會院講演　本月十三日午後一時廿分ヨリ　崇神論　病院ノ說　正員　三嶋毅　同　三宅秀